

国立国語研究所学術情報リポジトリ

米国議会図書館蔵『源氏物語』特殊表記による和歌一覧

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002605

米国議会図書館蔵『源氏物語』特殊表記による和歌一覧

神田 久義・豊島 秀範

米国議会図書館蔵『源氏物語』の特徴のひとつに、和歌を一行内で分ち書きのように表記するという、特殊な書写様式が挙げられる。とは言え、すべての和歌がこの特殊な表記法で書写されているわけではない。この表記法による和歌は、12巻「須磨」、13巻「明石」、14巻「湊標」、20巻「朝顔」、22巻「玉鬘」、24巻「胡蝶」、25巻「螢」、28巻「野分」、29巻「行幸」、44巻「竹河」、46巻「椎本」、51巻「浮舟」、52巻「蜻蛉」の、計13の巻に偏在しており、また、その総数は62首のみに留まる。

何故ごく一部の和歌だけにこの特殊な表記法が用いられているのか、その原因を究明することは、『源氏物語』本文の享受の一端を明らかにすることに他ならない。このような意識のもとに、豊島秀範には「アメリカ議会図書館本の和歌表記の特徴―和歌の一行散らし書きを中心に―」（『國學院大學大学院平安文学研究』第二号。二〇一〇年九月）の論考が、神田久義には「米国議会図書館本『源氏物語』の書写形態に関する一試論」（豊島秀範編『源氏物語本文の研究』。文部科学省科学研究費補助金基盤研究（A）「源氏物語の研究支援体制の組織化と本文関係資料の再検討及び新提言のための共同研究」、課題番号〔19202009〕、二〇一一年三月）の論考がある。上記の論考では、

和歌の表記法との関わりに、豊島は物語内容や書写者の本文理解を、一方、神田は複数の書承段階を想定した。

両者の意見に食い違いが見られるように、この写本の和歌の表記法については、いまだ説明されていない部分も多く、今後の更なる研究が望まれる段階にある。本稿では62首全ての特殊な表記法による和歌の画像を掲載した。今後の研究の一助となれば幸いである。

謝辞

画像の撮影および掲載について、米国議会図書館から許可を頂きました。御尽力いただきました米国議会図書館アジア部日本課の伊東英一氏・中原まり氏・PPHER.Y 清代氏に感謝申し上げます。

凡例

I、和歌には物語内での出現順に1～62までの通し番号を付した。

II、和歌の一覧は以下のように構成した。

(i) 第一行目には、通し番号、巻名・丁数と表裏の別・行数、和歌に関する簡単な説明を記し、「」内に新編日本古典文学全集『源氏物語』①～⑥での該当ページ数を示した。

(ii) 第二行目には、該当部分の写本の画像を示した

(iii) 第三行目には、翻刻本文を示した。

III、翻刻本文は以下の通りに作成した。

(i) 漢字は新旧・異体字を問わず、通行のものに改めた。

(ii) 変体仮名は通行の仮名に改めた。

(iii) 写本での字配りを再現するよう努めた。

1. 須磨 7才5 光源氏から紫の上への贈歌〔②巻 173頁〕

あやてふ人かき 紫の上へ
あけいほ歌

翻刻 身はかくてさすらへ ぬと 君かあたり
も さらぬかゝみの かけは
はなれし

2. 須磨 8才6 花散里から光源氏への贈歌〔②巻 175頁〕

月さつるおのころ 花散里
かきやう歌

翻刻 月かけのやとれる 袖は
せはくとも とめても
見はや あかぬひかりを

3. 須磨 10ウ2 光源氏から藤壺への返歌〔②巻 180頁〕

うきうきおのころ 藤壺
かきやう歌

翻刻 わかれしにかなしき ことは
つきにしを 又そ
この世の うさはまされる

4. 須磨 10ウ9 右近の将監から光源氏への贈歌〔②巻 181頁〕

うきうきおのころ 右近
かきやう歌

翻刻 ひきつれて あふひのかさし
そのかみを おもへはつらし かも
みつかき

5. 須磨 18才9 光源氏から六条御息所への贈歌〔②巻 195頁〕

あまかすむ なけきの
中に しほたれて いつまで
すまの うらになかめむ

翻刻 あまかすむ なけきの
中に しほたれて いつまで
すまの うらになかめむ

6. 須磨 21才6 光源氏の唱和歌〔②巻 201頁〕

あまかすむ なけきの
中に しほたれて いつまで
すまの うらになかめむ

翻刻 はつ雁は こひしき人の
つらなれや たひの空とふ こゑの
かなしき

7. 須磨 28才9 光源氏から宰相中将（かつての頭中将）への贈歌〔②巻 215頁〕

あけぬ夜にやかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

翻刻 あけぬ夜にやかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

8. 須磨 28ウ9 光源氏から宰相中将（かつての頭中将）への贈歌〔②巻 216頁〕

あけぬ夜にやかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

翻刻 雲ちかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

9. 明石 15才3 光源氏から明石の君への贈歌〔②巻 249頁〕

あけぬ夜にやかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

翻刻 いふせくもころに物をなやむかなややとふ人
いかにともなみ

10. 明石 15才9 9の歌に対する明石の君から光源氏への返歌〔②巻 250頁〕

あけぬ夜にやかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

翻刻 おもふらむころのほとややよいかにまた見ぬきゝか
人のなやまむ

11. 明石 19才9 明石の君から光源氏への返歌〔②巻 257頁〕

あけぬ夜にやかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

翻刻 あけぬ夜にやかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

12. 明石 20ウ3 光源氏から紫の上への贈歌〔②巻 259頁〕

あけぬ夜にやかくとひかふ 空に見よわれは
はる日のかゆきてみん うらやま かへる
しきは 雁金

翻刻 しほくとまつそかりそめのみるめはすさひ
あまのなれとも

- 13 明石 20ウ6 12に対する紫の上から光源氏への返歌〔②巻 260頁〕

うらなくも おもひ
けるかな ちきりしを まつより こえし
なみは 物そと

翻刻 うらなくも おもひ
けるかな ちきりしを まつより こえし
なみは 物そと

- 14 明石 24オ7 光源氏から明石の君への返歌〔②巻 267頁〕

あふまての かた見に
ちきる 中のをの しらへは かはら
ことに さらなん

翻刻 あふまての かた見に
ちきる 中のをの しらへは かはら
ことに さらなん

- 15 明石 24ウ3 明石の君から光源氏への返歌〔②巻 267頁〕

年あけの うき浪の かへる 身をたくへ
あれて うき浪の かへる 身をたくへ
まし

翻刻 年あけの うき浪の かへる 身をたくへ
あれて うき浪の かへる 身をたくへ
まし

- 16 明石 25オ6 光源氏から明石の君への返歌〔②巻 269頁〕

かたみにも かふへ
かりける あふことの 日かす
へたてん 中のころもを

翻刻 かたみにも かふへ
かりける あふことの 日かす
へたてん 中のころもを

- 17 漆標 6オ10 光源氏から宣旨の娘（明石の姫君の乳母）への贈歌〔②巻 288頁〕

かたみにも かふへ
かりける あふことの 日かす
へたてん 中のころもを

翻刻 かたみにも かふへ
かりける あふことの 日かす
へたてん 中のころもを

- 18 漆標 6ウ2 17の歌に対する宣旨の娘から光源氏への返歌〔②巻 288頁〕

あふまての かた見に
ちきる 中のをの しらへは かはら
ことに さらなん

翻刻 あふまての かた見に
ちきる 中のをの しらへは かはら
ことに さらなん

19 落標 7ウ2 明石の君から光源氏への返歌〔②巻 290頁〕

翻刻 ひとりして なるは おほふ かけをし
そでの ほとなきに はかりの そまつ

20 落標 8ウ3 紫の上から光源氏への贈歌〔②巻 293頁〕

翻刻 思ふとち なひく あらず われそ さきたち
かたには とも けふりに なまし

21 落標 8ウ5 20の歌に対する光源氏から紫の上への返歌〔②巻 293頁〕

翻刻 たれに よをうみ ゆき たえぬ うきしつ
より 山に めくり なみたに む身そ

22 落標 10オ5 明石の君から光源氏への返歌〔②巻 296頁〕

翻刻 数ならぬ みしま けふも とふ人
かくれに なくたつを いかにと そなき

23 落標 15ウ9 明石の君から光源氏への返歌〔②巻 307頁〕

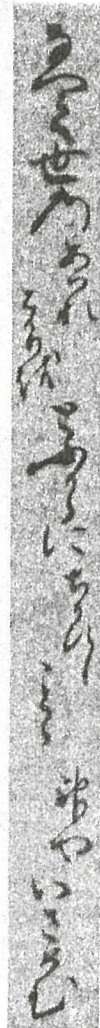
翻刻 数ならて なのは かひなきを へと身を おもひ
ことも つくし そめけん

- 24 濡標 16才3 23の歌を受けた光源氏の独詠歌〔②巻307頁〕



翻刻 露けさの むかしに
にたる 旅衣 たみのゝ 名には
しまの かくれす

- 25 朝顔 3ウ4 朝顔の前斎院から光源氏への返歌〔②巻474頁〕



翻刻 なへて世の あはれ
はかりを とふからに ちかひし 神や
ことゝ いさめむ

- 26 朝顔 13才9 紫の上から光源氏への贈歌〔②巻494頁〕



翻刻 氷とち 石まの
水は ゆきなやみ そらすむ かけそ
月の なかるゝ

- 27 朝顔 13ウ3 26の歌に対する光源氏から紫の上への返歌〔②巻494頁〕



翻刻 かきつめて むかし
恋しき 雪もよに あはれを をしの
そふる うきねか

- 28 玉鬘 21才8 光源氏から玉鬘への贈歌〔③巻123頁〕



翻刻 しらすとも たつねて みしま おふる
しらん えに みくりの すちは
たえしを

- 29 玉鬘 22才3 28の歌に対する玉鬘から光源氏への返歌〔③巻124頁〕



翻刻 数ならぬみくりやなにの
すち うきに ねを
なれは しもかく とゝめけん

30 玉鬘 25ウ7 光源氏の独詠歌〔③巻 132頁〕



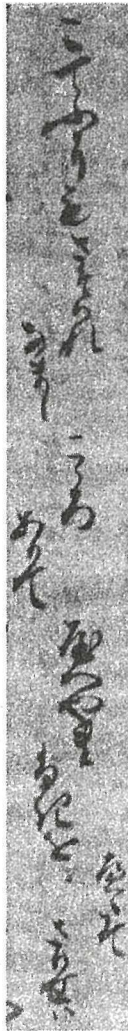
翻刻 恋わたる 身はそれ 玉かつら いかなる たつねき
なれと すちを ぬらむ

31 胡蝶 5オ7 紫の上から秋好中宮への贈歌〔③巻 172頁〕



翻刻 花そのゝ こてふを 秋まつ うとく
さへや 下草に むしは 見るらむ

32 胡蝶 5ウ8 31の歌に対する秋好中宮から紫の上への返歌〔③巻 173頁〕



翻刻 こてふにも さそはれ こゝろ やへやま へたて
なまし ありて ふきを さりせは

33 胡蝶 7ウ6 柏木から玉鬘への贈歌〔③巻 177頁〕



翻刻 おもふとも 君は わき 岩もる いろし 見えねは
しらしな かへり 水に

34 螢 4ウ5 玉鬘から蛭兵部卿官への返歌〔③巻 201頁〕



翻刻 こゑはせて 身をのみ いかす ほたるこそ いふより おもひ
まさる なるらめ

- 35 螢 6才4 螢兵部卿官から玉鬘への贈歌〔③巻 204頁〕

翻刻 けふさへや ひく人
もなき みかくれに おふる
あやめの ねのみ
なかれむ

- 36 螢 6才7 35の歌に対する玉鬘から螢兵部卿官への返歌〔③巻 204頁〕

翻刻 あらはれていと
あさくも 見ゆるかな あやめも なかれ
わかす けるねの

- 37 螢 11ウ2 光源氏から玉鬘への贈歌〔③巻 214頁〕

翻刻 思ひあまり むかしの たつぬ おやに
あとを れと そむける たくひなき
こそ

- 38 螢 11ウ5 37に対する玉鬘から光源氏への返歌〔③巻 214頁〕

翻刻 ふるき跡を たつぬれ なかり この世に おやの
とけに けり かゝる ころは

- 39 野分 10ウ6 玉鬘から光源氏への贈歌〔③巻 280頁〕

翻刻 吹みたる 風の をみな しほれし こゝちこ
けしきに へし ぬへき そすれ

- 40 野分 10ウ10 39の歌に対する光源氏から玉鬘への返歌〔③巻 280頁〕

翻刻 下露に なひかま をみな あらき しほれ
しかは へし 風には さらまし

41. 野分 12才7 夕霧から雲居雁への贈歌〔③巻 283頁〕

風ふたしき 夕霧から雲居雁への贈歌

翻刻 風さはき むら雲 夕にも わするゝ わすられ
まかふ まなく め君

42. 行幸 4才10 光源氏から玉鬘への返歌〔③巻 295頁〕

あかねさす ひかりは くもら なくて めをきら

翻刻 あかねさす ひかりは くもら なくて めをきら
空に ぬを みゆきに しけん

43. 竹河 9才8 薫から藤侍従への贈歌〔⑤巻 74頁〕

あけふの 藤侍従への贈歌

翻刻 たけ川の はし打 たかき そこは
出し 一ふしに こころの しりきや

44. 竹河 14ウ8 薫から藤侍従への贈歌〔⑤巻 84頁〕

はさるそ 藤侍従への贈歌

翻刻 つれなくて すくる かそへ ものうら くれの
月日を つゝ めしき はるかな

45. 竹河 16才9 蔵人少将から玉鬘の大君への贈歌〔⑤巻 86頁〕

花をみて 春は けふよりや しけき したに

翻刻 花をみて 春は けふよりや しけき したに
くらしつ なけきの まとはん

46 竹河 16ウ9 45の歌に対する玉鬘の大君から蔵人少将への返歌〔⑤巻87頁〕

翻刻 けふそしる 空を けしき はなに うつし
なかむる にて こころを けりとも

47 竹河 18オ7 玉鬘の大君から蔵人少将への贈歌〔⑤巻90頁〕

翻刻 あはれてふ つねなら ぬ世の 一ことも いかなる かへる
人に 物そは

48 竹河 18ウ2 47の歌に対する蔵人少将から玉鬘の大君への返歌〔⑤巻91頁〕

翻刻 いける世の しには まかせねは きてや きみか
こころに やまん 一こと

49 椎本 4オ6 匂宮から宇治の姫君たちへの贈歌〔⑤巻174頁〕

翻刻 山さくら にほふ たつね おなし おもて
あたりに きて かさしを けるかな

50 椎本 4オ10 49の歌に対する宇治の中の君から匂宮への返歌〔⑤巻175頁〕

翻刻 かさしおる 玉の 山かつの かきねを はるの
たよりに すきぬ たひ人

- 51 椎本 13ウ8 句宮から宇治の中の君への贈歌〔⑤巻193頁〕



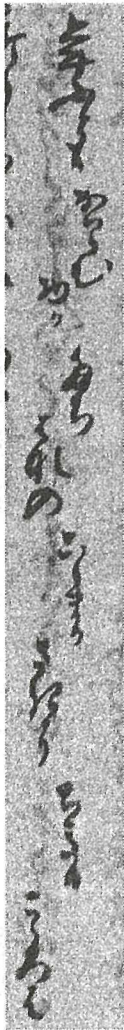
翻刻をしかなく 秋の いか こはきか かつる
山さと ならむ 露の 夕暮

- 52 椎本 14ウ3 の歌51に対する宇治の大君から句宮への返歌〔⑤巻194頁〕



翻刻なみたのみ 霧ふた 山 まかきに もろこゑ
かれる さとは しかそ になく

- 53 浮舟 22才8 句宮から浮舟への贈歌〔⑥巻151頁〕



翻刻年ふとも かはらむ たち こしまか ちきる
物か はなの さきに こころは

- 54 浮舟 22才10 の歌53に対する浮舟から句宮への返歌〔⑥巻151頁〕



翻刻たちはなの 小嶋は
いろも かはらしを このうき ゆくゑ
舟そ しられぬ

- 55 浮舟 25ウ3 句宮から浮舟への贈歌〔⑥巻157頁〕



翻刻なかめやる そなたの 見えぬ そらさへ こころの
雲も まて くるゝ わひしさ

- 56 浮舟 26ウ5 薫から浮舟への贈歌〔⑥巻159頁〕

水は舟の
さくらさくら
さくらさくら
さくらさくら
さくらさくら

〔翻刻〕水まさる をちの いか はれぬ かきくら
さと人 ならむ なかに すころ

- 57 浮舟 26ウ10 55・56の歌を受けた浮舟の独詠歌〔⑥巻160頁〕

美しき舟の
さくらさくら
さくらさくら
さくらさくら
さくらさくら

〔翻刻〕里の名を わか身に やまし 宇治の いと
しれは ろの わたりそ すみうき

- 58 浮舟 27オ3 55の歌に対する浮舟から匂宮への返歌〔⑥巻160頁〕

かきくらし
みねの
あま雲に
うきて
身とも
なさはや

〔翻刻〕かきくらし はれせぬ
みねの あま雲に うきて 身とも なさはや

- 59 浮舟 27オ7 56の歌に対する浮舟から薫への返歌〔⑥巻161頁〕

しづかに
舟の
さくらさくら
さくらさくら
さくらさくら

〔翻刻〕つれ／＼と 身をしる をやま 袖さへ みかさ
雨の ねは いと まなりて

- 60 浮舟 34ウ6 薫から浮舟への贈歌〔⑥巻176頁〕

浪の
さくらさくら
さくらさくら
さくらさくら
さくらさくら

〔翻刻〕浪こゆる ころとも しらす すゑの松 まさらん おもひ
とのみ けるかな

61. 蜻蛉 11ウ5 薫から匂宮への贈歌〔⑥巻 223頁〕

翻刻 しのひねや きみも なくらん かひもなき しての こころ たをさに かよは

62. 蜻蛉 11ウ8 61の歌に対する匂宮から薫への返歌〔⑥巻 223頁〕

翻刻 たちはなの かほる あたりは ほとゝきす こころ なくへ してこそ かりけれ